

# 平成23年度 北九州市行財政改革有識者会議《第5回》

## 委員意見概要

日時 平成24年2月8日(水)

15:30~17:30

場所 市役所5階 特別会議室A

### 1 開 会

### 2 議題1 新たな行財政改革の検討の柱と見直しの方向性について 論点整理

#### 《進行概要》

『北九州市行財政改革有識者会議における新たな行財政改革の検討の柱と見直しの方向性について 論点整理』(案)について、検討の柱ごとに記述内容の確認を行うとともに、今後の進め方について意見をいただいた。

#### 今後の進め方について

##### (全般について)

総論としては、「選択と集中」という形で行財政改革を見直していくべきだという方向性は出ているが、どういった「選択と集中」であるかということについて、方向性を明確に示すというのが、今後の課題である。

行革と、限られた資金と人材の中でどこに集中を持っていくのかという成長戦略については、両輪で考える必要がある。そのため、今後の行革の議論にあたっては、成長戦略に関する検討状況についても示してもらいたい。

##### (目標管理について)

「行政の仕事は、民間に比べると目標管理がやりにくい」とも言われるが、局・部・課それぞれのレベルで目標を明確にし、市民に対してどう「見える化」するのか、わかりやすい仕組みを考えてもらいたい。

民間企業よりも行政組織体のほうが、目標管理が必要となってくる。民間企業の場合は、収益など目標が明確に出てくるが、行政組織体というのはアウトカムが見えない。具体的にどのような行動をとって、その行動はどれだけの成果があったのかを「見える化」しようとするのが目標管理である。

(公共施設のマネジメントについて)

場合によっては施設の更新をしないなど、統廃合を含め、優先順位付けを行う必要がある。

この会議では、全体的な財務状況等も含めた資産管理をどうするのかなど、方向性について議論していくこととなる。個別の施設の存廃、統合などを検討する場合は、別途、その考え方をまとめる委員会のようなものを作ってはどうか。

建物の維持管理にどれだけの税金が投入されているのか、数字が見えないと、市民は「施設を無くしてほしくない」と感情的に動いてしまうところがある。きちんと数字で示し、目に見える形にする工夫が必要である。

年間の利用者数や経費、また、1人当たりのコストを明らかにすれば、「施設を集中し数を減らす代わりに、設備のいいものにする」などという説得ができるのではないか。今あるものを無くすということも、コストがどれだけかかっているかを示せば理解してもらえらるであろうから、市民に対しては、そういった数字をきちんと示すべき。

コストだけで見ていくのではなく、代替性のない施設もある。方向性について判断するときは、明確な基準を示す必要がある。

(組織のマネジメントについて)

権限と責任を明確にする観点から、配置の見直しの検討は局長クラスから行ったほうがよい。局長、理事、部長クラスがどういう職務をやるのか、それに対してどのような責任を持っているのか、そのあたりから考えるべき。そこから整理していかないと、なかなか若い人の登用等の考えが出てこないだろう。また、このような検討は内部の意見だけでなく、外部のコンサルタントなどを入れてみてはどうか。

(外郭団体の見直しについて)

外郭団体は、今までやってきた延長で議論されるケースが多いが、廃止を含め、抜本的にあり方の見直しを行っていくべき。

### 3 閉 会